

電気のふるさと

電源地域ニュース

C O N T E N T S

- Key Person 2
 - 北海道 泊村 村長
 - 佐藤 淳一
- 特集 電源地域のサクセスストーリー I 4
 - 平成15～16年度 (財)電源地域振興センター マーケティング調査事例
 - 漁師のおかみさんたちが手塩にかけた魚醤
 - 八森「しょつつる」開発物語
 - 秋田県 八森町
- 電源地域の政策トピックス 10
 - 新たな地域振興制度を活用した電源地域の取り組み
 - 福島県 富岡町
 - 北海道 岩内町
- 特集 電源地域のサクセスストーリー II 12
 - 行政にも商店街組合にもできないまちづくり、そこにTMOの意義がある
 - TMO「株式会社ぶらくり」のまちづくり
 - 和歌山県 和歌山市
- センター掲示板 16
 - 第16回「電気のふるさとじまん市」を開催 16
 - あなたの地域の担い手づくり 最近の研修事業から 17
 - 「エネルギープラザ2005年度」開催のお知らせ 18
 - ふるさとじまん
 - そばにあらず、うどんにあらず 麺の中の逸品 もちむぎ麺 兵庫県 福崎町 18
 - Vol.1 読者の声から 19
 - 人事往来 19
 - 読者プレゼント 19
 - 編集後記 19



秋田県 八森町



和歌山県 和歌山市

表紙のことば

北海道の積丹半島の南西に位置する泊村は、日本海と山々に囲まれた美しい景観を誇る村です。大小の奇岩が並ぶ海岸沿いのダイナミックな風景は、ニセコ・積丹・小樽海岸国定公園に指定されています。積丹半島を代表する観光ルートのひとつ「カプトライン」(国道229号線)の象徴ともいえるのがカプト岬。カムイシレバ(神の岬)と呼ばれるカプト岬には、義経伝説やアイヌ伝説などが語り継がれています。

表紙: 泊発電所(北海道電力、原子力) 総出力: 115万8千kw

営業運転開始: 平成元年6月(1号機)、平成3年4月(2号機)、平成21年12月予定(3号機)

Key Person



北海道 泊村 村長
佐藤 淳一

最近の世界情勢は、テロや、地震等の自然災害が多く発生するなど、人々の生活に大きな不安を与え、さらには原油の高騰等による不安定な経済状況の中で、安心、安全な暮らしが求められているところであり、一方、環境問題においても地球温暖化防止対策等の大きな課題を抱える中で、クリーンエネルギーと言われる原子力発電も重要なエネルギーとして認識をされているところでもあります。泊村においても、国のエネルギー政策の下に北海道唯一の原子力発電所が立地されている村として注目を浴びております。

泊村の主産業は、漁業と炭鉱でありましたが、北海道で最古の炭鉱が国のエネルギー政策などにより昭和三十三年に閉山、漁業も二百万カイリ規制問題による衰退、加えて沿岸漁業の不振等によって、かつて一万人を超えた人口も二百百人まで減少し、高齢化が急速に進む中で村の再生を図るべく、あらゆる政策に取り組んでいたところに原子力発電所の立地が決定され、北海道初の原子力発電所の建設がなされたのであります。

村としては、石炭から原子力、そして風力とエネルギーに大きく

関わりの深い村であることから、エネルギーのふるさととして、立地に伴う交付金等を起爆剤に原子力発電所と漁業の共存共栄、そして観光等の産業を興しながら、また村の活性化を図りながら、自然災害、高齢化、少子化対策等社会のさまざまな変化に対応すべく、すばやい情報の供給などの事業に取り組み地域振興に努めてきたところです。

現在、高齢者の福祉、医療、少子化対策、防災等さまざまな定住促進を図り、「住民が住みつきたくなる村づくり」を行っており、村民からも喜ばれているところですが、おかげさまで減少し続けていた人口も、減少することなく定着してまいりました。

特に、地域情報化ネットワークの整備では、国土交通省の「新世代下水道支援事業」や農林水産省の「漁港漁村活性化対策事業」の補助を受け、下水道管渠の空間を利用して全村に光ファイバー網を敷設しました。これにより、各世帯にパソコン一台を貸与し、行政情報の提供、さらにテレビ電話による在宅健康管理など、高速大容量のインフラを最大限にさまざまな分野で活用して、幅広く住民

サービスの提供を行っております。今後も、このネットワークをさらに充実させ、健康管理面においては、診療所と大病院を直接結びCTやMRI等の画像診断による地域医療の拡充や村内無料電話の構築など、村民が安心して暮らせる村づくりを推進すべく計画実施の最中であり、

平成二十一年十二月には、泊発電所三号機(加圧水型軽水炉・出力九十一万二千ワット)の運転開始が予定され、現在建設中です。原子力発電に対する世論の注目度は今後一層高まるものと考えられますが、技術の進歩と共に、雇用の面や経済的波及効果等の最大限の利点を活用して、住民がさらに快適に住みたくなるような特色のある村づくりを進めてまいります。

泊村では、鯨の往時をしのんで復元した鯨御殿があり、それらにあやかた「群来まつり」を開催しております。また、原子力発電所への理解とPRを兼ね、発電所構内にコースを設け実施している「HOKKAIDOとまりマラソン」等の大きなイベントも行ってまいります。ぜひ一度、風光明媚な北海道泊村にお越しください。